現地組立型単心SCコネクタ
光ファイバコード型クイックSC™
取扱説明書

住友電気工業(株)
ETK1223153C

安全にお使い頂くために

本製品は安全性を充分に考慮して設計しています。しかし間違った使い方をすると、事故や製品の故障につながる恐れがあります。事故を防ぎ、安全にお使い頂くために次のことを必ずお守り下さい。

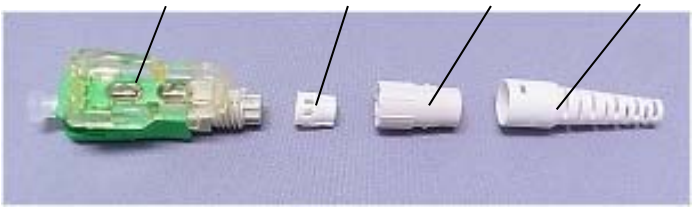
★光ファイバおよび光ファイバ屑は小さく、先端が鋭利です。指に刺す、目に入る、と怪我をする恐れがありますので、取り扱いには十分注意して下さい。
作業中は**安全メガネを着用**して下さい。
★コネクタ端面や光ファイバ端面を**のぞき込まない**で下さい。強い通信光が出ている場合があり、目を傷つける恐れがあります。通信光は目には見えませんので十分注意して下さい。
★高所での作業の際には、組立工具を落とさぬ様にご注意下さい。（リストストラップ等をご使用下さい。）

⚠ 必ずお読み下さい

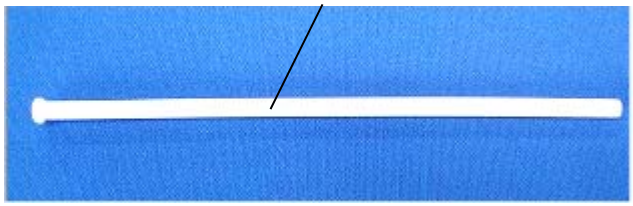
①組立方法を誤ると本来の性能が得られない場合があります。**本説明書をよくお読みになって**からご使用下さい。
②本製品はチリ・ホコリが大敵です。コネクタはご使用の**直前に開封する**様お願いいたします。
③本製品は切断面により特性が大きく変わります。良好な切断特性を有するカッタを使用下さい。
④コネクタへの**ファイバ挿入はゆっくり**と行って下さい。乱雑に挿入した場合、ファイバが破損して工事不良につながる可能性があります。折れたファイバが飛散する恐れもあります。
⑤異物の混入による光損失増を防ぐため、ダストキャップはコネクタを**接続するまで外さない**で下さい。
⑥コネクタ内部には適量の屈折率整合剤を充填しております。コネクタへの**ファイバ挿入を2回以上行わない**で下さい。

構成品

コード型QSCコネクタ　シーススストッパ　ケブラストッパ　ブーツ

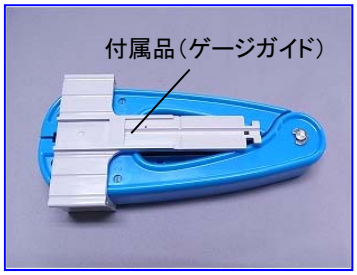


保護チューブ



SCコネクタ用組立治具ベース　0．9心線用ファイバホルダ

必須工具



シーススリッター

おすすめ工具

1. ジャケットリムーバ
（φ0．25／0．9mm心線の被覆が除去できるもの）

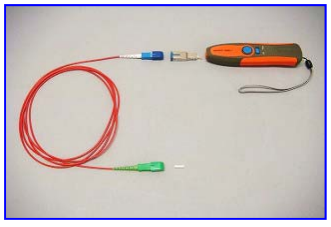
①JR-M03

②JR-25

2. 精密ニッパ

3. ファイバカッタ

4. 可視光漏れ確認キット（住友推奨可視光源使用）



［お問い合わせ先］　住友電気工業株式会社 光機器事業部
TEL（045）853-7225　FAX（045）851-1286

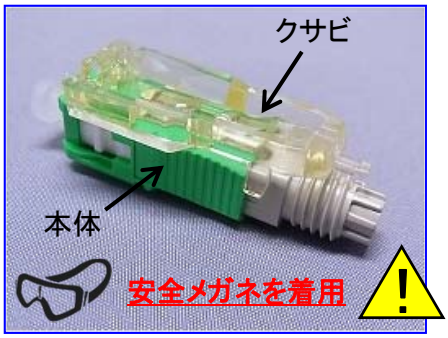
Copyright © 2014 Sumitomo Electric Industries, LTD.

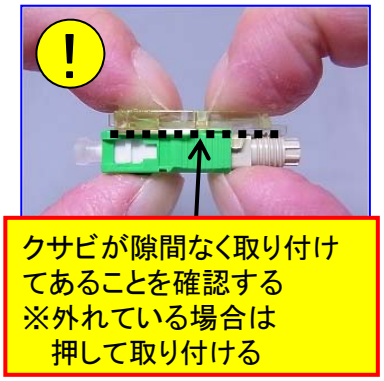
SUMITOMO ELECTRIC

光ファイバコード用クイックSC組立手順

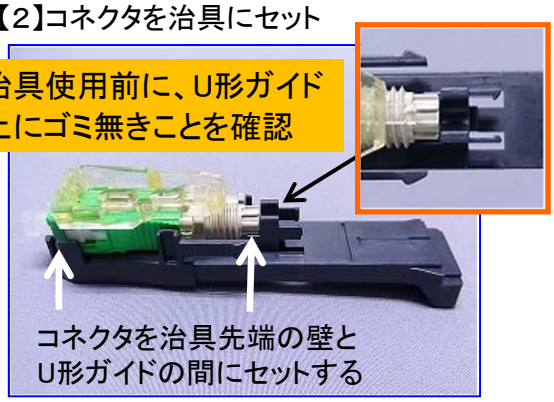
住友電気工業(株)

【1】コネクタ準備

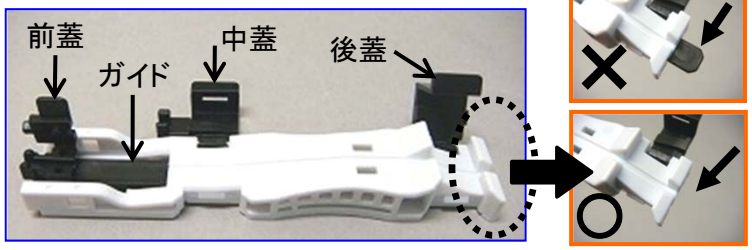




【2】コネクタを治具にセット

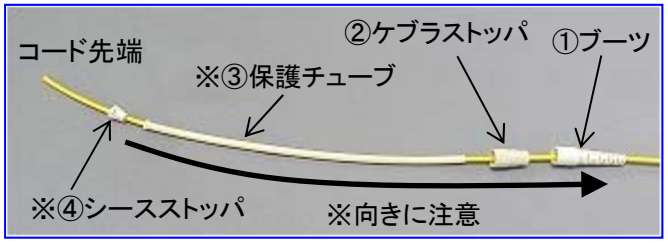


【3】ホルダの準備



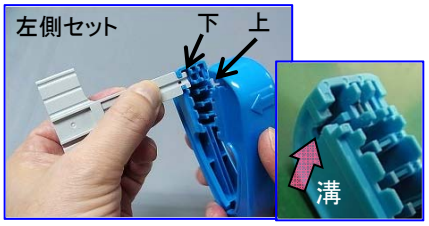
ホルダ使用前に、前、中、後蓋を開けて、ガイド後端がホルダ本体から出てないことを確認する。出ている場合はガイド後端を押し込む

【4】光コードに部品を通す(番号順に挿入する)

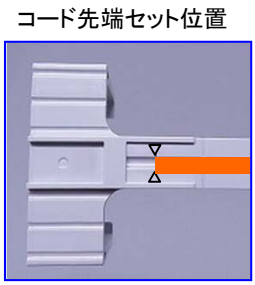


【5】シースの除去

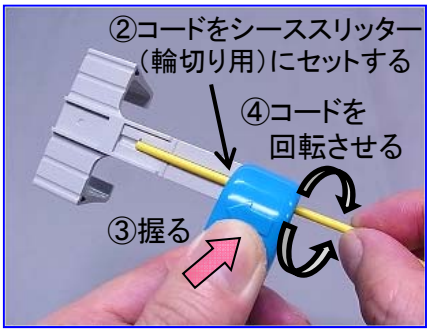
①ゲージガイドをシースストリッター(溝)にセットする



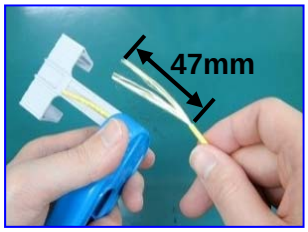
ゲージガイドは上下に取り付け可能です。上下切り替えることでセット方向が利き手に応じて左右に切り替わります。



△マークに
合わせて下さい



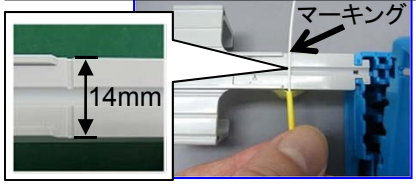
【6】ケブラを引っ張る



⑤シースを剥ぐ

手間隔 50～70mm

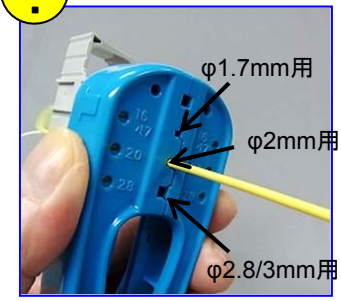
【7】心線被覆除去位置にマーキングを施す

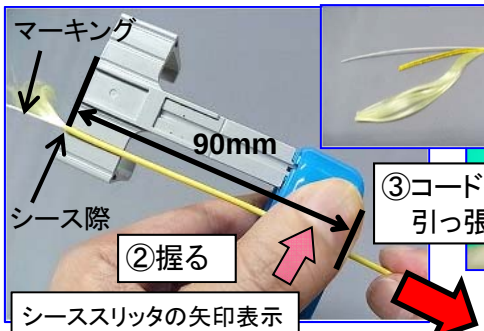


【8】シースを縦裂きする

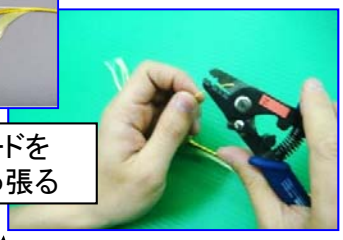
①コードをシースストリッター(縦裂き用)にセットする

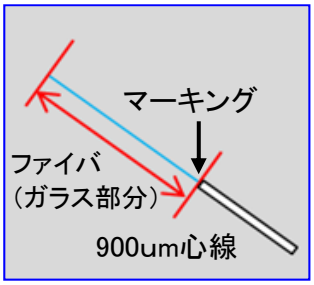
コード外径により、セット位置が異なります。





【9】心線被覆の除去





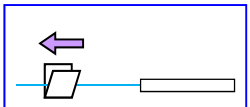
2～3回に分け、最後の1回が心線のマーキング位置と なるように被覆を除去する。

Copyright © 2014 Sumitomo Electric Industries, LTD.

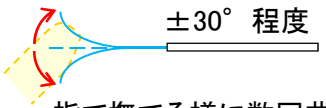
SUMITOMO ELECTRIC

【10】ファイバの清掃　【11】スクリーニング　【12】ホルダに心線セット

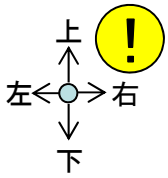
ファイバをホルダの溝に入れ、セットする



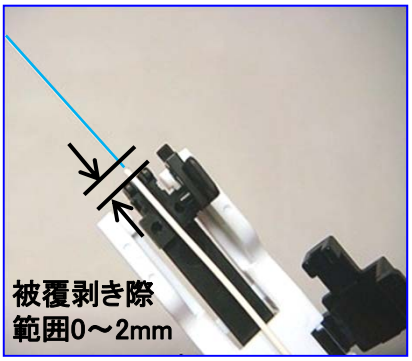
ガーゼに無水アルコールを付け、円周方向に数回拭き被覆屑を取り除く

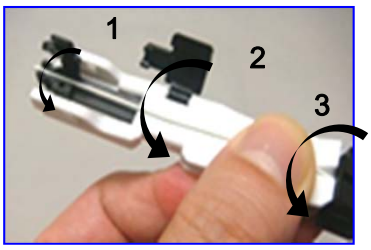


指で撫でる様に数回曲げて折れないことを確認

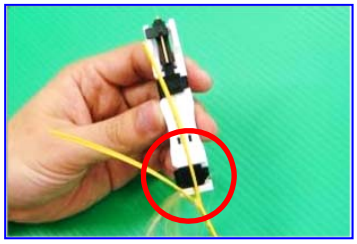


折れた場合は【5】項からやり直して下さい





ファイバが動かないように指で押さえて、前蓋、中蓋、後蓋の順に閉じる

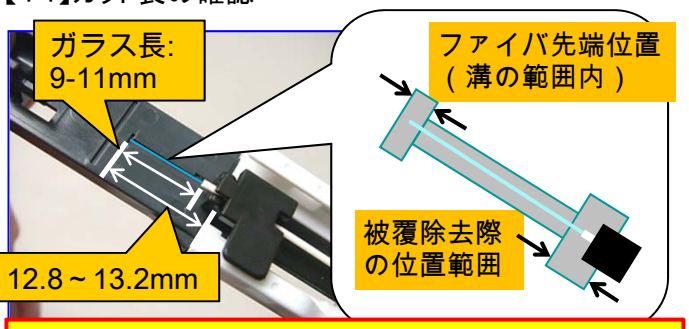


ファイバホルダ上にシースを乗せておくと、以降作業し易くなります

【13】ファイバカット

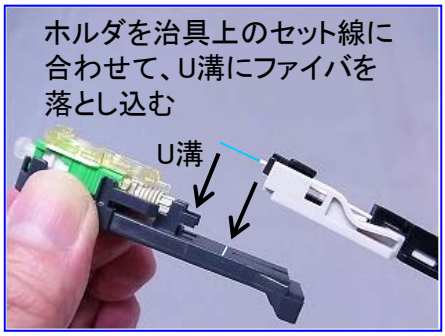
※当社製FC-7R使用の場合

【14】カット長の確認

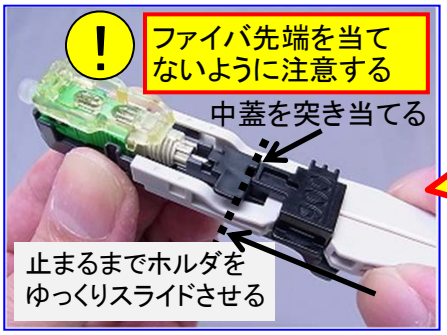


※寸法が合ってない場合は【5】項からやり直す

【15】ファイバ挿入①



ファイバ挿入②



ファイバ挿入③

中蓋を開けないと、挿入ファイバと内蔵ファイバが突き当たらず、損失高となる恐れがある

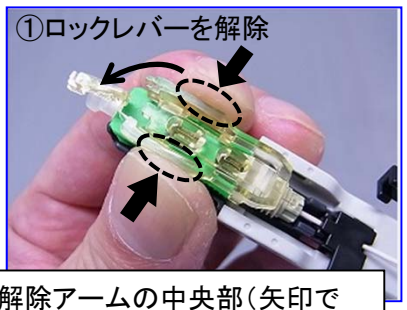
ファイバ挿入④

【16】ファイバのたわみを確認する

ファイバを押さえて持つと、たわまず強く押し込まれ過ぎ、内部で損傷する可能性がある

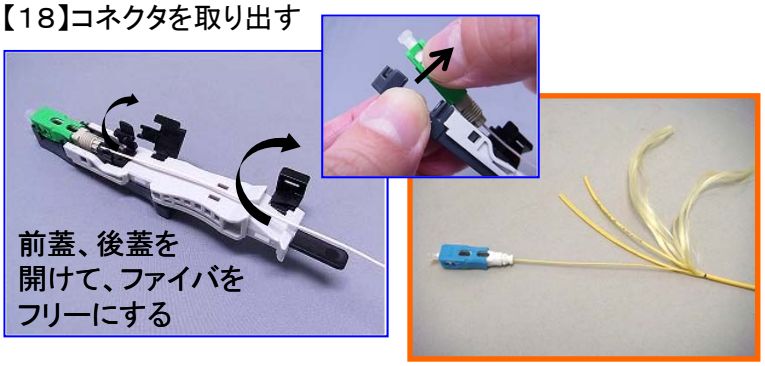
確実に接続する為、心線の後端部を2回を押し込むこと

【17】クサビを取り外す



②解除アームの中央部（矢印で示す部分）を押し、クサビを外す

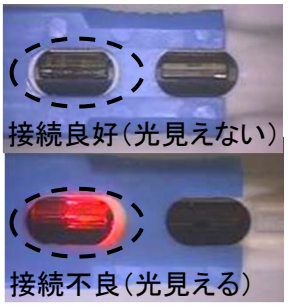
【18】コネクタを取り出す



【19】可視光によるチェック

※住友推奨以外の可視光源を使用した場合は、接続が良好でも光強度が強すぎて光が消えない場合があります。

★組立後の接続状態は可視光で確認できる



Copyright © 2014 Sumitomo Electric Industries, LTD.

SUMITOMO ELECTRIC

接続不良の場合

右の方法でファイバを再押し込みすることにより、接続面が適切に接触し改善する場合がある

【1】再度コネクタにクサビを取り付ける

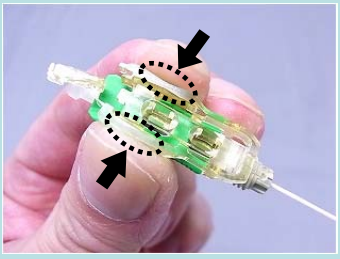
クサビとコネクタ間に隙間がなきこと

【2】挿入されたファイバを押し込み、再度たわみを作る

コネクタからファイバを引き抜かない

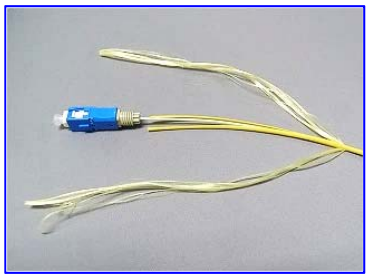
コネクタ先端から80 +/−10 mm の位置でファイバを保持

【3】たわみを保持したままクサビを外す

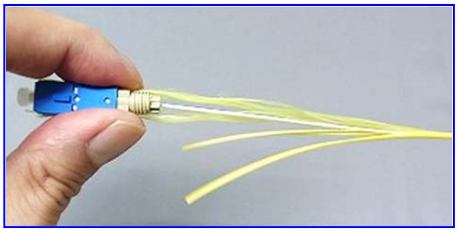


★重要：作業中はファイバがコネクタから抜けないように保持すること

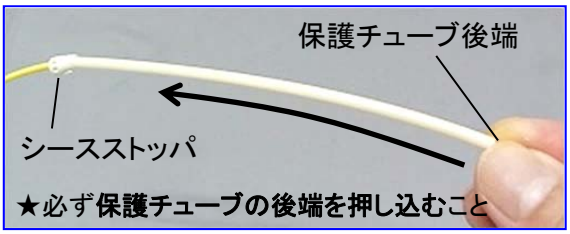
【20】ケブラを2分割する



【21】ケブラをコネクタに添わせるように抑える

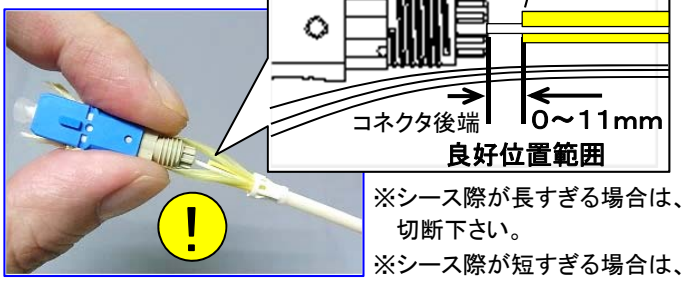


【22】保護チューブの後端をゆっくり押し込み、シーストッパと保護チューブをコネクタに引き寄せる



★必ず**保護チューブの後端を押し込むこと**

シース際の位置確認

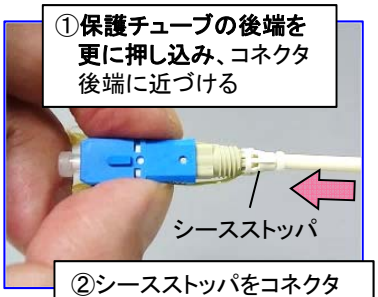


※シース際が長すぎる場合は、切断下さい。

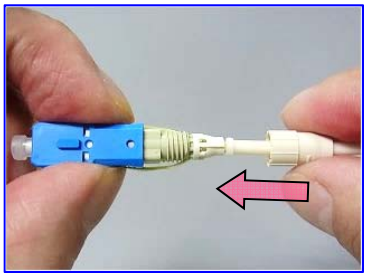
※シース際が短すぎる場合は、廃却し最初からやり直して下さい。

★被覆は固定されません。

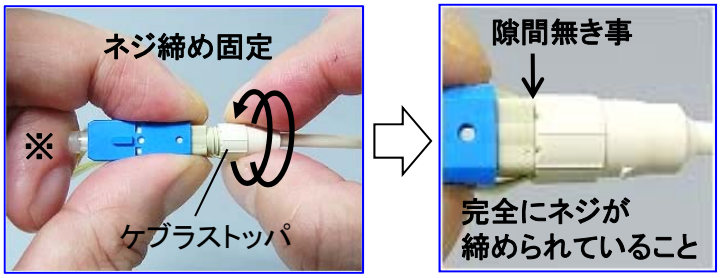
【23】シーストッパをコネクタ後端に嵌め込む



【24】ケブラストッパをコネクタに引き寄せる

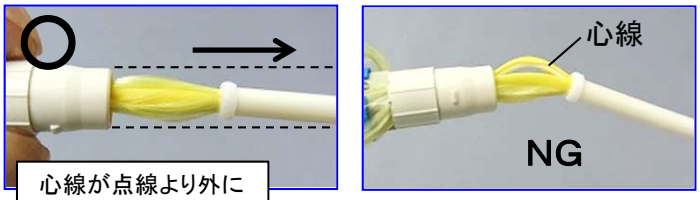


【25】ケブラストッパを接続する



【26】心線のたわみを確認

保護チューブを1cm程度引いて「心線のたわみ」を確認する



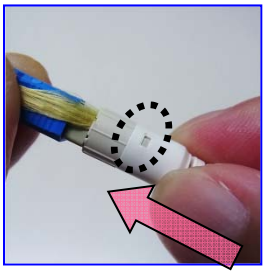
※確認良好後は、保護チューブを再度ケブラストッパに寄せる。（必ず**保護チューブ後端を押し込んで**実施のこと。【22】参照）

＜NGの場合＞
ケブラストッパを外して【20】項からやり直して下さい。

! ケブラを保護チューブの中でたるませない、またネジ締め時にケブラが巻き込まれないように、ケブラをコネクタ横に添えてしっかり固定しながら実施下さい。

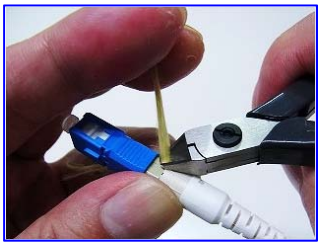
（※写真のようにキャップを押さえてSCツマミを固定するとSCツマミが動きにくいです。）

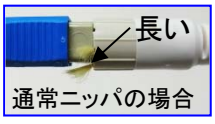
【27】ブーツ取り付け

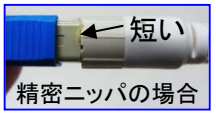


【28】ケブラ除去　（より美観をよくするコツ）

ケブラを引っ張りながら精密ニッパで根元を切断する







Copyright © 2014 Sumitomo Electric Industries, LTD.

SUMITOMO ELECTRIC